

CPP83 “What Appear on the Rings of Saturn”  
By Tree Man (on) Black Moon (Kinohito KULOTSUKI, @KAI)  
CPP83 「土星の環に現われるもの」/黒月樹人

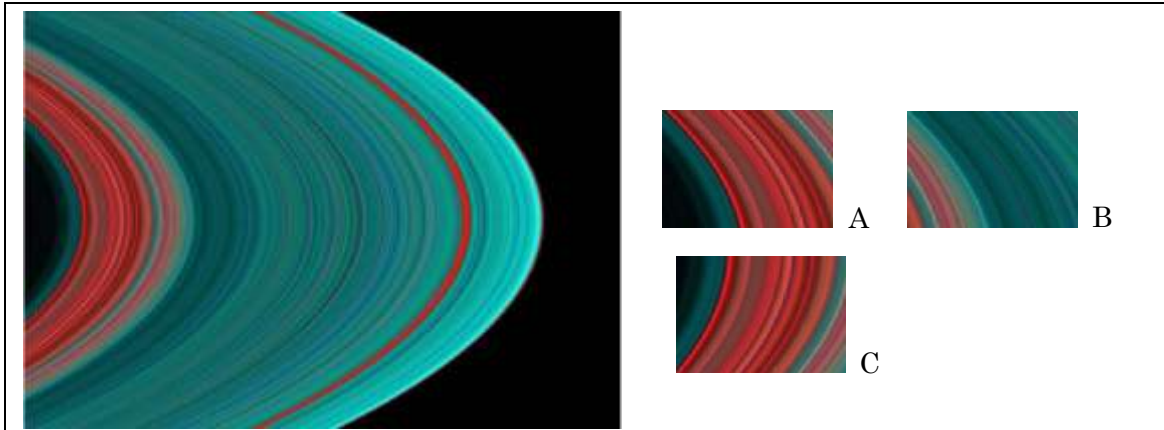


図 1 土星の環[1]と解析領域 A,B,C

[1] Cassini Images Saturns A Ring (12.07.2004)

土星の環は何からできているのか。発見のための旅を続けている、ロボット宇宙探査機カッシーニは二週間前に土星の周回軌道に入ったのであるが、このたび、土星の大きな A 環をとりまく領域の、紫外線による、何枚かの詳細な画像を撮影した。上の画像において、青みが強い領域ほど、水の氷が多くあることを示している。これに対して、赤みが強いほど、何らかの種類の塵が多くあることを示している。これと他の画像から、内側にある環は外側の環より塵が多いことになる。とりわけ、上に示されたように、左にあるカッシーニ間隙(Cassini Gap)にある薄い環は、右に示されている土星の A 環の外側部分に比較して、比較的高密度の塵を内容物として持っている。この「塵／氷」の様子は、環の起源に対する、重要な手がかりになりうるかもしれない。他の青い A 環の中にある薄い赤い帯は、エンケ間隙(Encke Gap)である。塵の正確な成分はまだ知られていない。(日本語への翻訳は黒月樹人による)

<http://www.spacetoday.org/images/Saturn/CassiniAtSaturn/Rings/CassiniSaturnARing.jpg>

土星の環の画像[1]をウェブで見つけて、これについてテスト的に解析した。解析領域 A, B, C の位置を描かないが、対比して見れば明らかだろう。この画像は紫外線で撮影された。青っぽいところは水の氷が多く、赤っぽいところは、塵が多い。この塵の正確な成分は知られていない。このような説明が、画像に添えられていた。

これから示す画像は、黒月解析研究所で開発した、各種のマジカルフィルターによって、これらの画像データから、色値の相対的な意味づけを変化させて、再構成したものである。今回、それらのマジカルフィルターのコードの意味については説明しないが、再現性をたもつため、それらのコードを記しておく。ただし、「A+」の「+」記号は、「A」の一つ目の部分領域を意味している。「++」だと二つ目のものである。

なぜ、このような画像が得られるのかということについては、まだよく分かっていない。  
しかし、これまで、誰も見なかった、土星の環の姿が、これらに現われている。

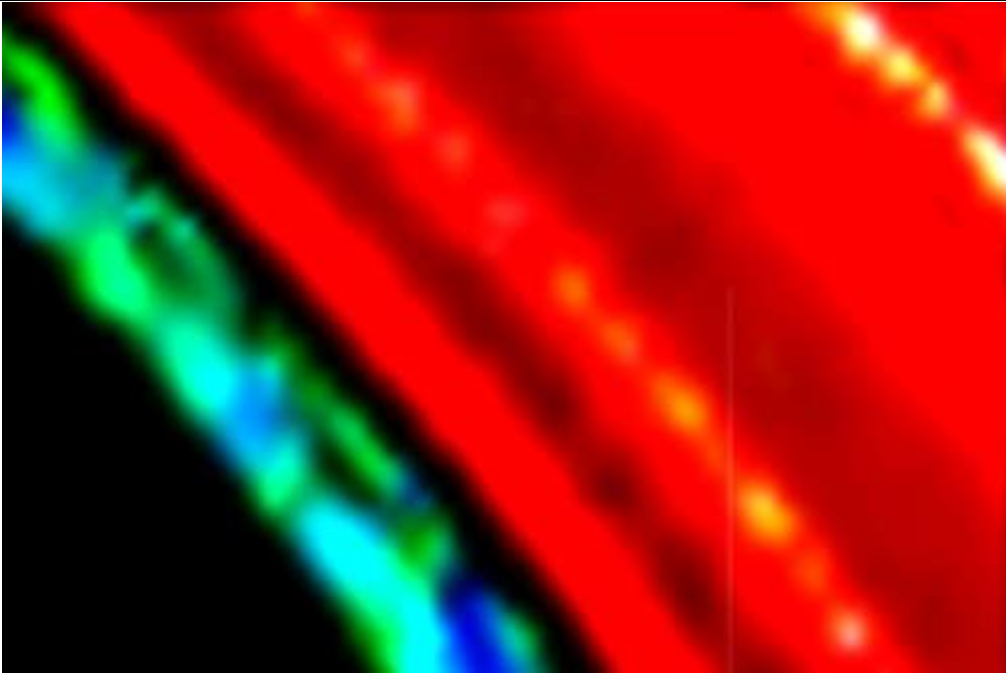


図 2 A+ by wave100\_50.exe

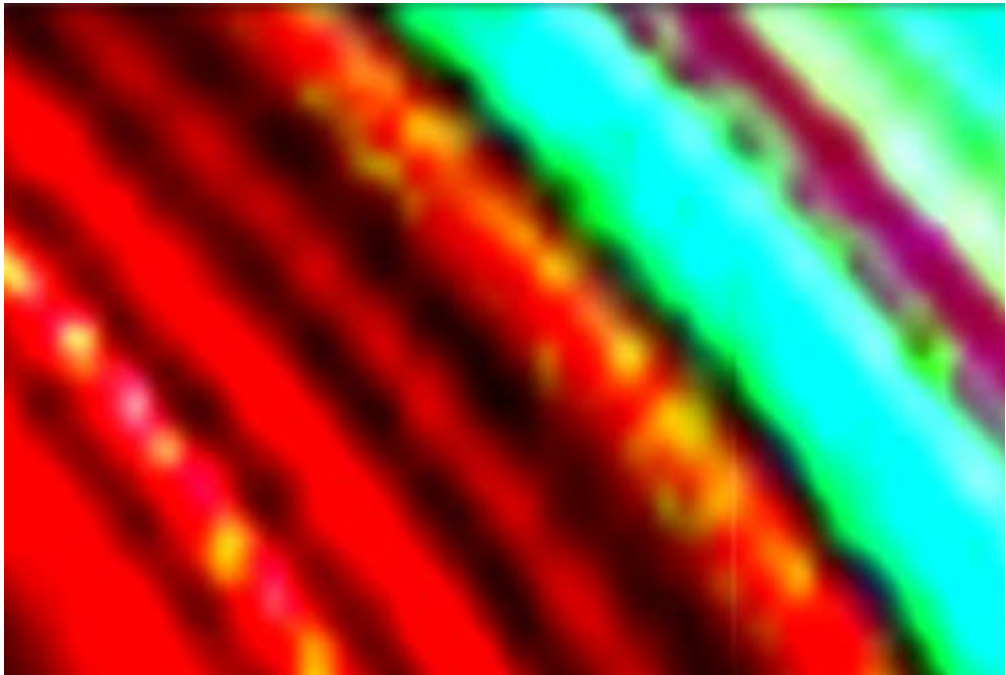


図 3 A++ by honansnur100\_46.exe

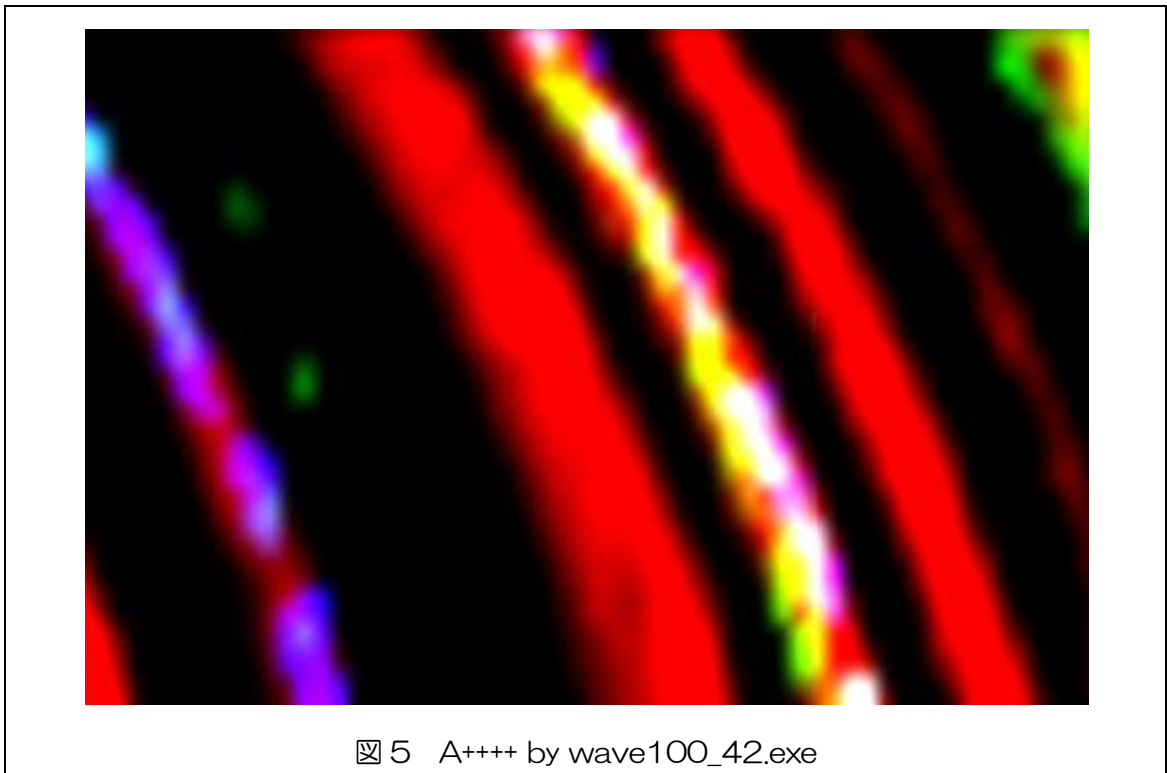
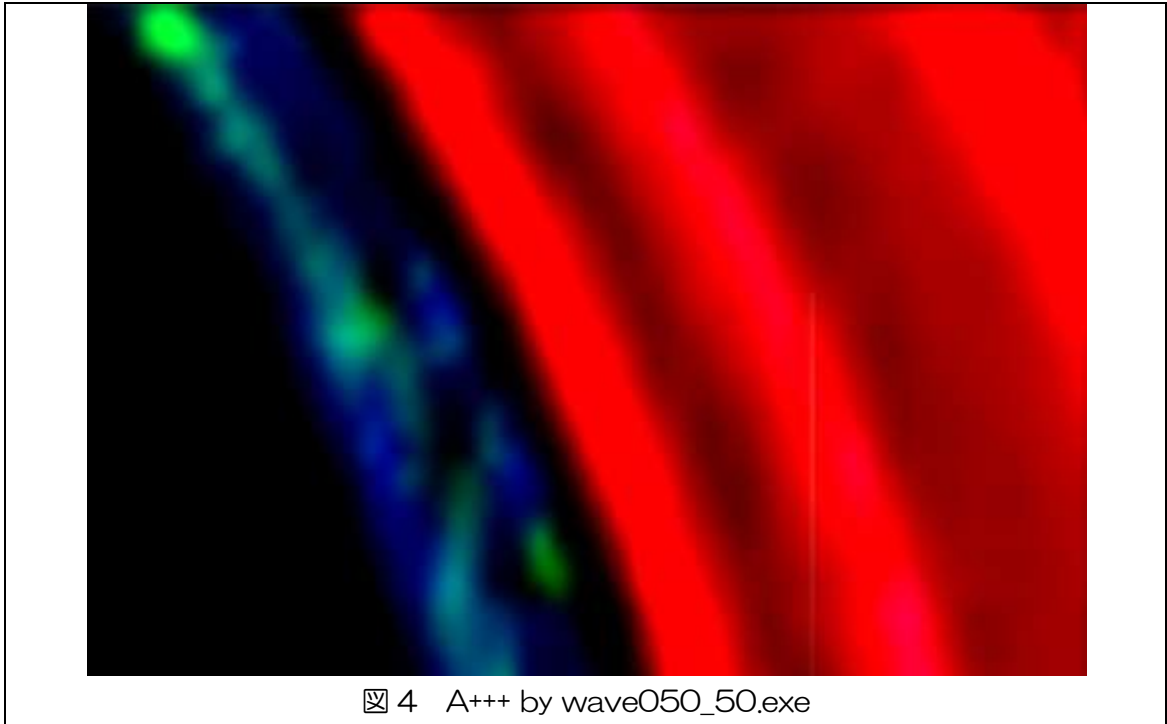




图 6 B+ by .wave100\_02.exe

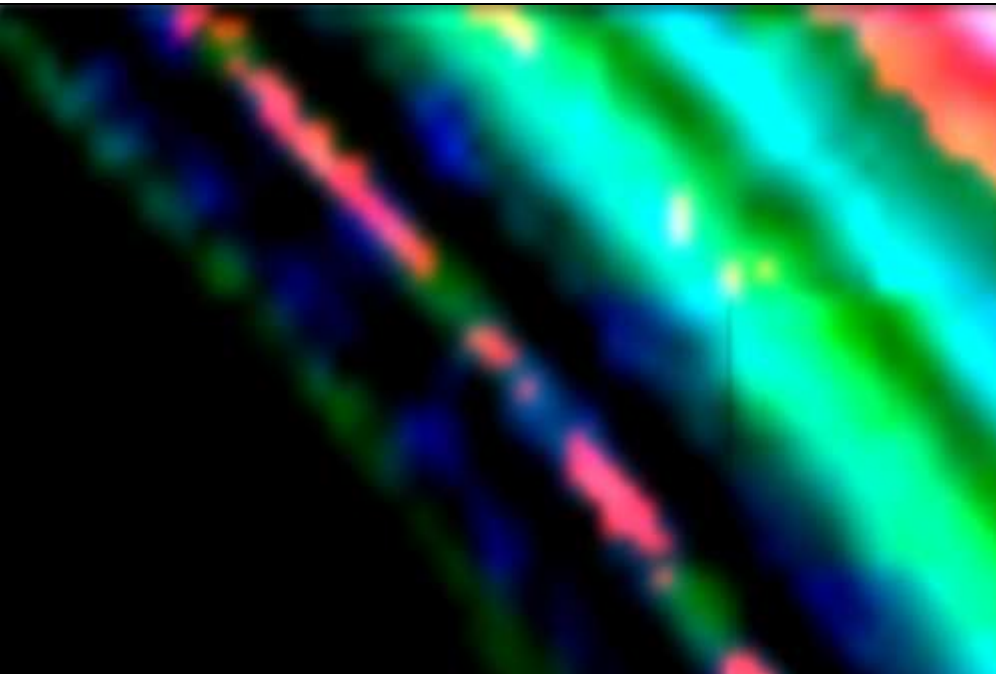


图 7 B++ by wave100\_18.exe

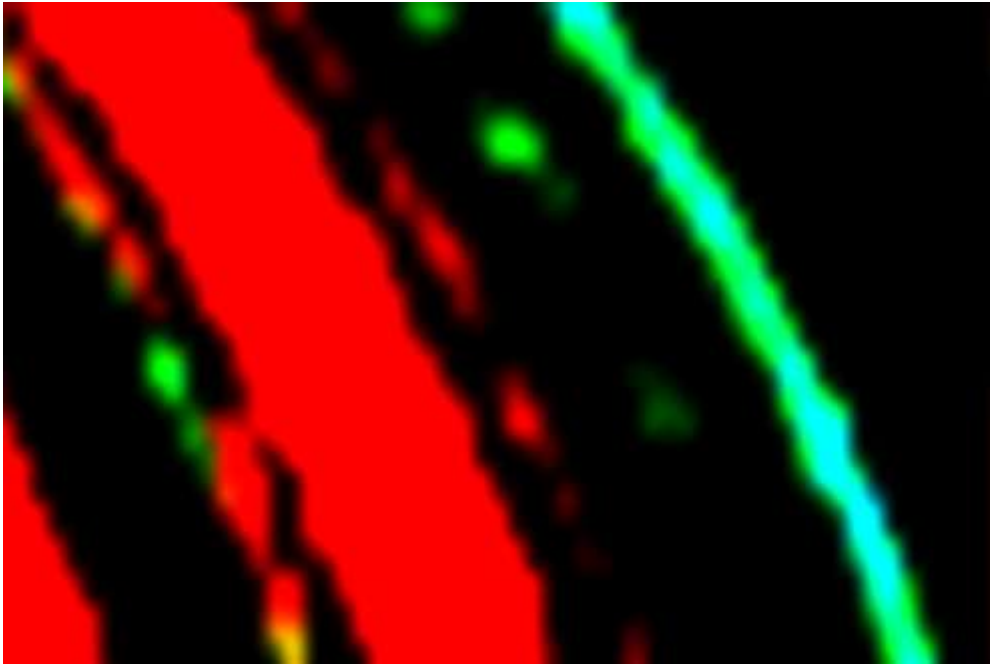


图 8 B+++ by ansaz100\_120.exe

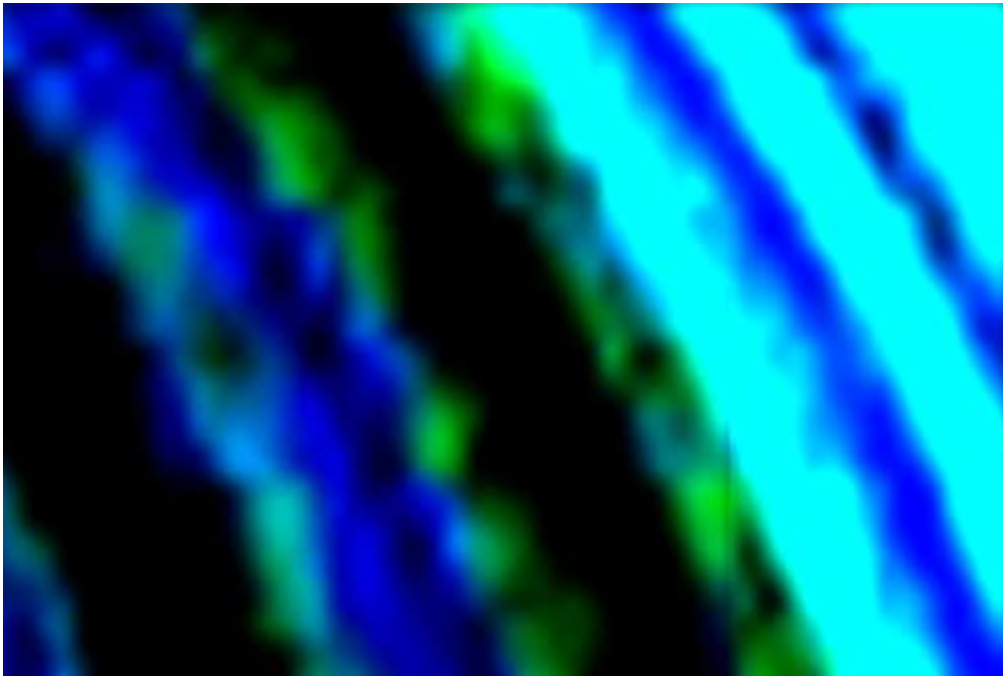
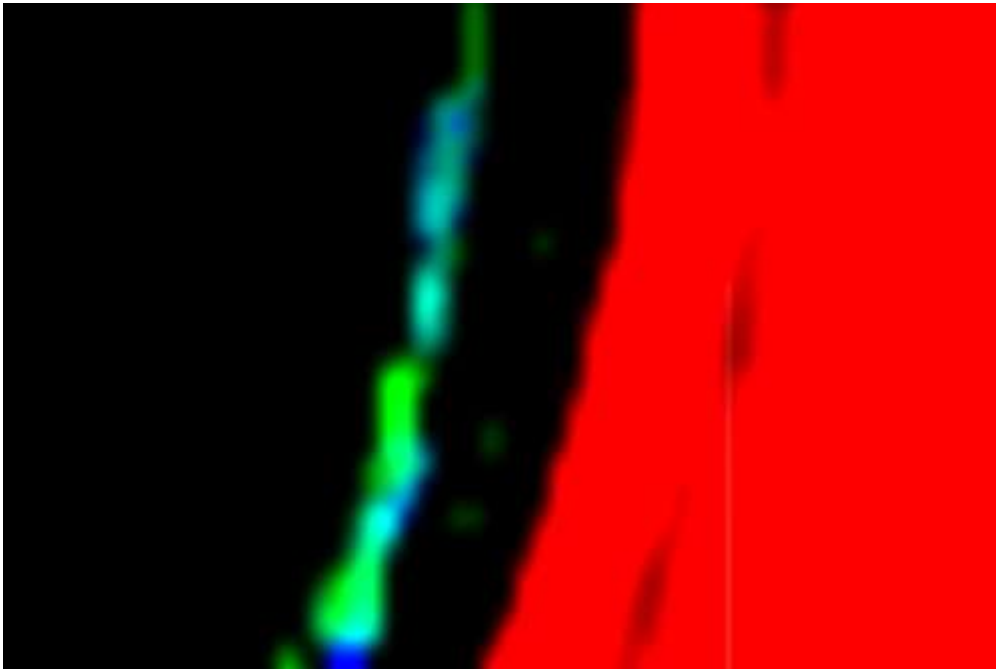
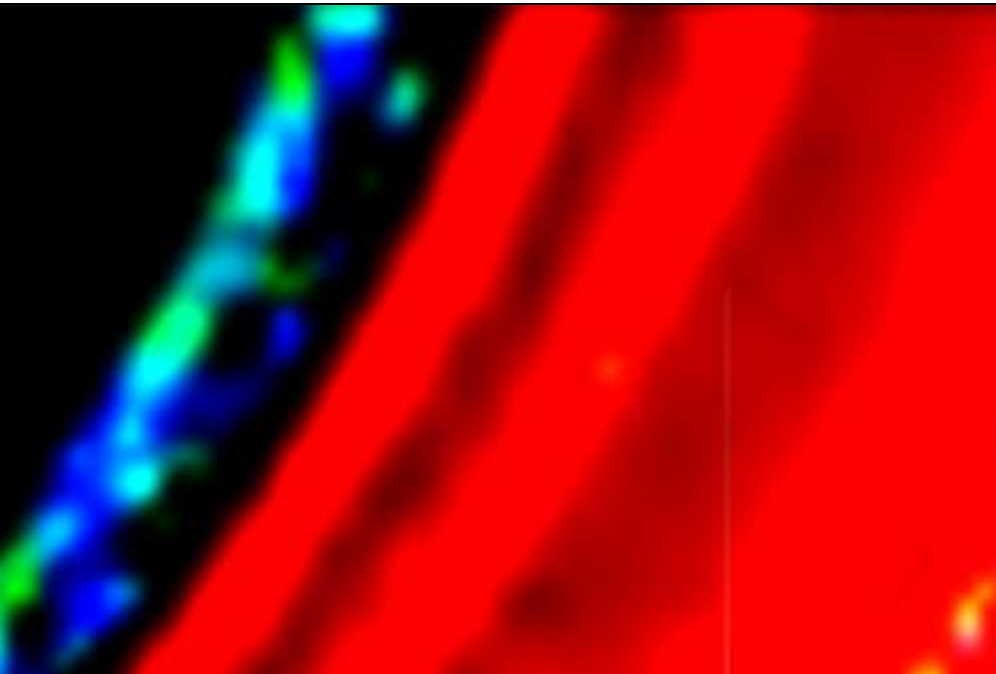


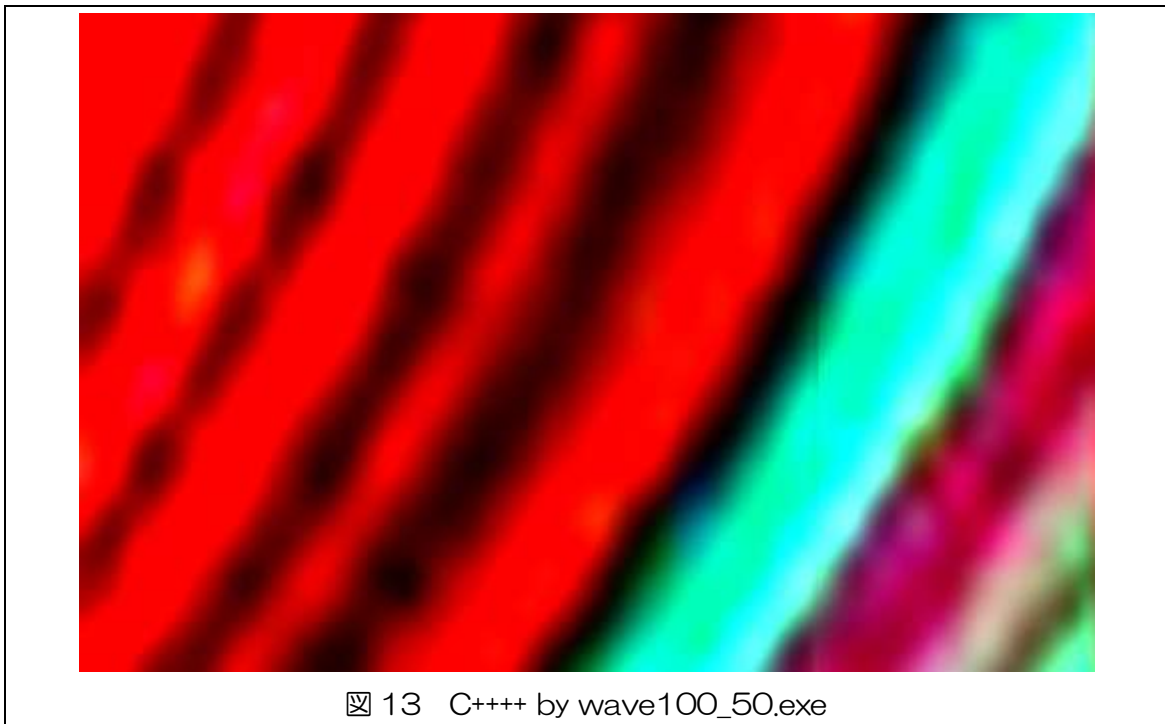
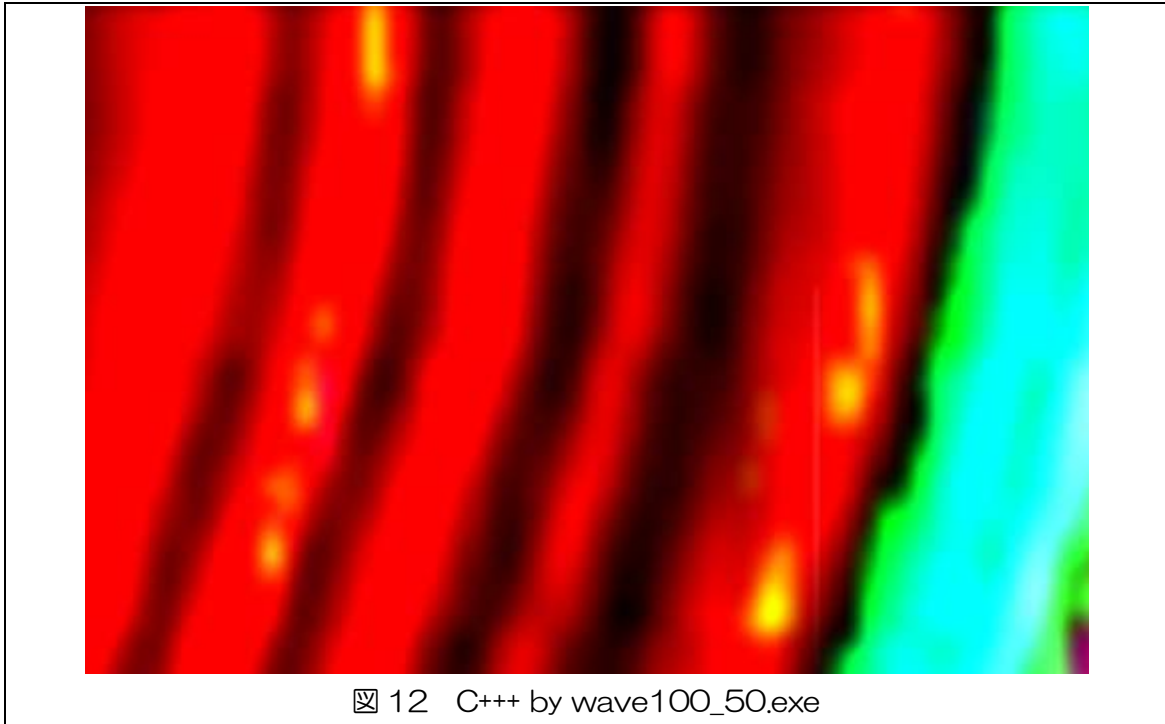
图 9 B++++ by ansaz200\_76.exe



☒ 10 C+ by wave100\_70.exe



☒ 11 C++ by wave100\_50.exe



(2009.05.25 Written by Kinohito KULOTSUKI [ @ ] KULOTSUKI ANALYSIS INSTITUTION, [treeman9621@ray.ocn.ne.jp](mailto:treeman9621@ray.ocn.ne.jp))